

第 61 回全国学校保健研究大会 参加報告

長岡市立浜海小学校 北原 千秋

I 研究大会の概要

1 趣 旨

近年、社会の変化に伴い、健康の保持増進の観点から早急に取り組むべき新たな健康課題が指摘されている。学校においては、家庭や地域との連携を深め、子どもが自ら健康課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に行動できるようにするために、「生きる力」を育む教育を推進する必要がある。多年にわたる研究の成果を踏まえ、生涯にわたり心豊かにたくましく生きる子どもの育成を目指して、健康教育に関する諸課題について研究協議を行い、学校保健の充実に資するものである。

2 主 題

生涯を通じて心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進
— 自ら健やかな心と体を育む子どもの育成 —

3 期 日：平成 23 年 10 月 27 日（木）・28 日（金）

4 会 場：静岡県コンベンションアーツセンター【グランシップ】

5 表彰式：(文部科学大臣表彰「学校保健及び学校安全表彰」並びに
「学校安全ボランティア活動奨励賞」)

「学校保健関係」

・学校医（54 名）・学校歯科医（33 名）・学校薬剤師（23 名）
・校長（7 名）・保健主事（1 名）・養護教諭（10 名）
・学校保健行政等（1 名）・学校（23 校）・団体（1 団体）

「学校安全関係」

・個人（2 名）・学校（19 校）

「学校安全ボランティア関係」

・学校安全ボランティア（50 団体）



※ 新潟県立高田南城高等学校 保坂 裕子 様が、この日、表彰されました。

前新潟県養護教員研究協議会会長として養護教諭の地位や資質向上のために多大なご尽力をいただいたり、日頃の学校保健及び学校安全活動の普及・発展のためにご活躍されたり、大きな功績をあげられたことが全国的に認められての表彰です。会員として、大変嬉しく思います。

保坂先生おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

II 主な研修内容

1 記念講演

講演内容 「学校現場における発達障害を持つ子どもたちへの対応」

講 師 浜松医科大学児童青年期精神医学講座 特任教授 杉山 登志郎 様

○発達障害が増えている。原因としては、晩婚化、タバコ、環境ホルモン、刺激絶対値の増加・減少、ストレスなどが考えられるが、直接の原因ではないとしても、リスクの積算が生じている。

○発達凸凹+適応障害=発達障害である。子どもの発達途上において、発達の特定領域に社会的な適応の問題を引き起こす可能性のある凸凹が生じたものである。

○発達障害児は虐待を受けやすい。

○発達障害の治療は、治療的教育である。子どもが「学校に行ける」「学校が楽しい」と思えるようであればよい。特別支援教育によってニーズへの対応が可能となった今、教師は、プロとしてのサービスをする必要がある。

○すべての子どもに必要なものは、『愛着者からの肯定と安心をあたえること』『自尊感情を高めること』である。通常学級に適応しなかったから支援クラスへという考え方は間違いである。発達障害の適応を左右するものは、迫害体験（過剰な叱責、虐待、いじめ）である。迫害体験は避けるべきである。

○これからの学校教育に必要なことは、発達障害を例外的に扱うことは出来ないということを中心に置いて、普遍的なシステムを再構築することである。

○高頻度凸凹グループへのかかわりは、教師サイドの腕の見せどころであるため、発達障害への対応が出来る教師が必要である。安定した自信を持った大人の存在が子どもを救うのである。

2 課題別研究協議会

課 題		研 究 協 議 題
第1課題	学校経営と組織的活動	心豊かにたくましく生きる力を育むための特色ある学校経営と組織活動の進め方
第2課題	保健学習	心身の健康保持増進するための実践力の育成を目指した保健学習の進め方
第3課題	保健指導	身近な日常生活における具体的な健康問題について自ら考え、解決できるようにするための保健指導の進め方
第4課題	心の健康	豊かな人間性と社会性を育み、心の健康の保持増進を目指す教育の進め方
第5課題	性に関する指導・エイズ教育	生涯を通じて健康な生活を営むための資質や能力を育てる性に関する指導・エイズ教育の進め方
第6課題	保健管理	生涯を通じて健康の保持増進を目指す疾病予防と保健管理の進め方
第7課題	歯・口の健康づくり	生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方
第8課題	学校環境衛生	快適な学校環境づくりを目指す学校環境衛生活動の進め方
第9課題	安全教育	生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うための安全教育の進め方
第10課題	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育	安全で豊かな社会と健康を守り育てるための喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方

III 参加した課題別研究協議会（第3課題 保健指導）で発表された内容

- 1 講義「身近な日常生活における具体的な健康課題について自ら考え、解決できるようにするための保健指導の進め方 — 計画的・組織的に取り組む保健指導の展開 —」
講 師 岡山大学大学院教育学研究科 教授 高橋 香代様

○多様化・複雑化した現代的健康課題を抱える今日、児童生徒が身近な日常生活における具体的な健康課題について自ら考え、解決できるようにするための保健指導を進めるためには、養護教諭や専門家などの専門性を生かして、計画的・組織的に継続可能な実践を行っていく必要がある。管理職をはじめとする全ての教職員と保護者に共通認識してもらうことが大切である。

【保健指導の計画的・組織的な展開】

- ① 組織的な指導体制と指導計画の作成
- ② 専門家の活用
- ③ 学年・学級の実態に応じた目標と内容
- ④ 家庭・地域への拡がり
- ⑤ 評価・実態のふりかえり



2 指導助言 「健康問題について、自ら考え解決できる保健指導の進め方」

コーディネーター 群馬県伊勢崎市立四つ葉学園中等教育学校 校長 木村 雅治 様
 ○生涯を通じて心身の健康を保持増進するため、自らの気づきの力を伸ばし、自ら解決しようとする積極的な能力を育てることが何より大切である。それらを支援するため、保健指導は、児童生徒の発達段階や各学校の実態に即し、各教科・特別活動等における集団指導や個別の健康問題を抱えている児童生徒に対する個別指導を、適切に工夫しながら進めていくことが大切である。

3 研究発表

テーマ	発表者	提言
① 日常の学校生活における保健指導の進め方 — 学年・学級と連携した保健指導の実際 —	山梨県立 白根高等学校 養護教諭 渡辺 としみ様	・「麻疹風疹予防接種の推進」「性感染症予防」における保健指導を中心とした、その成果と課題についての提言であった。 ・生徒個々の日常の健康問題を解決するため、職員が共通理解を図りながら、養護教諭と連携した保健指導等、積極的な働きかけを行った。
② 心身の健康に関心をもち、よりよく生きようとする子の育成を目指して — 保健週間・児童保健委員会の活動、家庭との連携を通して —	静岡県浜松市立 富塚西小学校 養護教諭 比奈地 むつみ様	・自らの健康問題に関心をもち、自主的に解決するための実践能力や態度を育てた実践例及び家庭での生活習慣点検実施等、家庭との連携に視点をあてた指導の成果と課題についての提言であった。 ・児童自身の生活や健康について自ら考える場面や、主体的に健康を推進する活動を設定することで、生活習慣の定着、自尊感情を高める等効果が見られた。
③ 健康問題の解決に向け、生徒が自ら考え実践する保健指導の進め方 — 組織的な歯科保健指導の取組を通して —	宮城県気仙沼市立 唐桑中学校 教諭 吉川 泉 様	・生徒が自ら考え実践する保健指導や組織的な歯科指導について、その成果と課題についての提言であった。 ・県内でも、特にう歯が多かった地域の現状から、町内全小中学校の歯科校医の指導のもと、歯科保健に力を入れ、地域全体でう歯の予防に成功した。

IV 研修に参加して

このような機会を与えていただき、改めて「情報の共有」「計画的・組織的」「系統だった継続的な保健指導」「専門家との連携」の大切さを痛感した。主役は『子ども』を頭に置き、自ら考え、解決できるようにするための保健指導を目指し、今後も家庭や地域や専門機関との連携した取組を行っていききたい。

第 61 回全国学校保健研究大会 参加者

長岡市立北辰中学校 清野 静子 長岡市立浜海小学校 北原 千秋